

組合だより

第 234号 平成25年12月 日本羊腸輸入組合

”頑張ろう日本”

今年も、はや師走になってしまいましたが、皆様、如何お過ごしでしょうか？
また、先日のテレビのニュースで、インフルエンザ流行の兆しについて説明がありました。
月並みですが、どうぞご自愛ください。そして、13日の金曜日には、元気なお顔でお会いできることを祈っております。

1. 組合の活動報告

50周年記念誌の送付

去る11月5日、当組合は満50歳になりました。 お送りしました「50年のあゆみ」を見て頂ければお分かり頂けると思いますが、昭和38年2月16日に羊腸輸入協議会として結成され同年の11月5日に日本羊腸輸入組合に改組し、同年12月27日に経済産業大臣の設立認可の通知を頂いたと書かれておりました。改組後、約1か月半で認可を得たあたりに、私は当時の関係者の強い意気込みを感じましたが、皆様方は如何でしたでしょうか。

INSCA会長の来日

11月18日、INSCAのHans Martin Kersting会長が来日し、当日午後から、組合関係者と約2時間にわたる懇談等を行いました。(紙面の関係で、この続きは最終ページに掲載します)

さて、財務省通関統計によれば、10月の天然ケーシングの総輸入量は、364.1トンで、前年同月に比べ約34.6トンの増加(+10.5%)でした。国別では、中国からの輸入が210.7トンで、前年同月に比べ25.7トンの増加(+13.9%)でした。同様に、オーストラリアからの輸入は42.7トンで、前年同月に比べ4.3トンの増加(+11.2%)となり、ニュージーランドからの輸入は100.9トンで前年同月に比べ8.9トン増加(+9.7%)となりました。

平成25年11月の組合受付数量は、926,230ハンクスと前月に比べ95,318ハンクス増加(+11.5%)でしたが、対前年同月比でみると229,400ハンクスの増加(+32.9%)でした。

*平成25年11月の組合受付数量

船舶	885,496 ハンク	
航空	40,734 ハンク	
合計	926,230 ハンク	(対前年同月比 132.9%)

*平成25年度(4月～3月まで)の組合受付数量

6,082,254 ハンク

2. 検査所だより

成田検査所の動向

11月の航空貨物の受付数量は40,734Hksで、10月に6万Hksを超える入荷があったため対前月比32.7%の減少になりました。これらの貨物に対する消毒・検査業務は順調に行われ全ての貨物が受付後1週間以内に完了しております。

11月7日(木)に、東京税関の内部監査人研修があり、齊藤所長が受講し、その資料等を基に11月11日(月)昼休み職員全員に対して内部研修を行いました。保税蔵置場の職員として日々法令に則り業務を遂行しております。また、11月11日、動物検疫所成田支所において、死亡した家畜等の霊を慰める畜霊祭が行われ齊藤所長が参加し、焼香してまいりました。

平成25年11月分受付数量及び消毒等実績

種	類	前月からの繰越	受 付	消 毒	翌月への繰越
航空	羊 腸	0	40,734	31,834	8,900
	豚 腸	0	0	0	0
	合計	0	40,734	31,834	8,900
船舶	羊 腸	0	36,000	17,500	18,500
	豚 腸	0	4,000	4,000	0
	合計	0	40,000	21,500	18,500
合計	羊 腸	0	76,734	49,334	27,400
	豚 腸	0	4,000	4,000	0
	合計	0	80,734	53,334	27,400

(単位：羊・豚腸：ハンク、牛腸：バンドル)

横浜検査所の動向

- 11月8日(金)動物検疫所において、死亡した家畜等を弔う畜霊祭が関係者を集めて執り行われました。日本羊腸輸入組合からは、横浜検査所長が組合を代表して列席しました。
- 11月20日付けで、当所の高松主任が新山下検査所の主任として異動しました。
- インフルエンザの流行及びノロウイルスの発症例が多くなってきたため、職員に手洗い、うがい等の励行を、また、インフルエンザの予防接種を受けるよう周知しました。

[11月の受付数量と消毒数量]

- 11月の受付数量は885,496Hksと、前月に比べて115,084Hks増加し、前月比114.9%となった。
- 11月の当所の消毒数量は332,502Hksで、前月に比べて117,982Hks減の消毒量であった。
- 11月の成田転送は40,000Hks(15,26日の2件)でした。
- 消毒終了予定
消毒貨物が順調に搬入された場合の消毒終了予定日は、平成26年1月15日(水)です(成田転送分を含む)。
注：消毒予定の順番は、当分の間、搬入期日が決まった順に消毒することにしていきますので、消毒終了予定が受付番号順と異なることがあります。
- 11月の受付数量、消毒数量、成田転送状況は、次のとおりです。

種別	前月の繰越分	受 付 数 量	消 毒 数 量			成田転送数 量	翌月への繰越分
			横 浜	新山下	小 計		
羊腸	580,102	868,246	332,502	315,250	647,752	36,000	764,596
豚腸	8,900	17,250	0	4,400	4,400	4,000	17,750
計	589,002	885,496	332,502	319,650	652,152	40,000	782,346
牛腸	0	0	0	0	0	0	0

(単位：羊・豚腸：ハンク、牛腸：バンドル)

新山下検査所の動向

日毎に朝晩の冷え込みも増し、本格的な冬の訪れが感じられる季節になってきました。インフルエンザの流行シーズンに備え、予防接種等早めの予防対策を心がけ感染防止、体調管理に務めております。また、今年も残すところ1か月となり師走の慌ただししい時節、事故、怪我のないよう安全管理に職員各々が十分注意し、支障の起らぬよう業務を行っております。

当所の11月受付数及び消毒数は、下表の通りです。

種別	前月の繰越分	受付数量	消毒数量	翌月への繰越分
羊腸	46,500	309,650	315,250	40,900
豚腸	4,400	0	4,400	0
計	50,900	309,650	319,650	40,900
牛腸	0	0	0	0

(単位：羊・豚腸：ハンク、牛腸：バンドル)

3. 今後の予定

12月 4日(水)	10:00	検査方法講習会(於:新山下検査所)
12月11日(水)		成田動検、税関等訪問(挨拶)
12月13日(金)	16:00	第6回理事会
	17:30	理事、監事、委員長、副委員長及び職員合同忘年会(於:龍名館)
12月28日(土)		年末年始休業日
平成26年1月6日(月)		業務開始

* 事務局からのお知らせ

INSCA会長の来日

(この部分は1ページからの続きです。)

参加者数は、前にも書きましたが理事、検査所長、組合員さん等含め、19名でした。

Hans会長は、答礼のスピーチの中で、INSCAの活動や財政面での日本の貢献を高く評価する旨の発言があった。また、会長は、深く感謝しているが、この気持ちが十分に伝わっていなかったとも発言し、会場で感謝の意を表明されていました。

その他にもINSCAのISWGからの撤退に関する発言や、ニュージーランドと中国の貿易障壁の話など当方の疑問への答えも含まれておりましたので、ご参考までに添付させていただきます。

INSCAのHans-Martin Kersting会長のスピーチ

2013年11月18日、東京、JNSCAの会合にて

本日はお招きいただき、ありがとうございます。

私は何年も前にINSCAの理事になって以来、日本の輸入業者の皆様の大きな存在感と多大なるご支援を目にしてきました。皆様はこの業界のために、幾多の骨折、幾多の貢献をされてきました。

INSCAとすべての加盟団体は、そのことを大変うれしく思っています。しかしながら、理事会と委員会の活動に知識、時間、財政面で積極的に貢献されている日本の組合と組合員の皆様に、この感謝の気持ちが明確に伝えられてきたとは思いません。

そこで、本日の話題に入る前に、まず、この場をお借りして、この業界への皆様のすべての貢献に対し、お礼申し上げます。

我々は、市場が日本の輸入業者の大半にとって有利ではなくなっていることを知っています。グローバル貿易の障壁となる新たな問題も日々発生しています。オセアニア産羊腸の主な輸入国である日本は、国内で、経済情勢や結果として生じる熾烈な競争といった別の困難にも直面してきました。

主に貿易障壁が立ちはだかる中、ISWGとICTRの活動の必要性は以前にも増して高まっています。

ICTRは、貿易の規制問題に関するロビー活動とISWGのこれまでの研究成果の活用を担当しています。我々が長年収集してきた宝の価値をご存じない方もいらっしゃるでしょう。ISWG設立のいきさつをご存じの方はいらっしゃるかもしれません。ドイツの団体と欧州のENSCAが初めて行った科学研究がその設立のきっかけとなったのです。80年代に実施されたCraftなどのプロジェクトがこれにあたります。30日間の塩漬け保存による製品の安全性が実証されたのも、この研究の成果です。

我々は今年、天然ケーシングの歴史が始まって以来初めて、5月にパリで開かれた国際獣疫事務局(OIE)総会で、加盟各国の食品安全当局高官に研究成果を披露する機会を得ました。これはISWGとICTR(取引規制に関する国際委員会)、そしてICTRのアドバイザーであるDr. Phillip Corriganとの努力の賜物です。

INSCAはIMS(国際食肉事務局)の一員としてOIEにある程度関わっており、今後はパリのOIE総会に毎年ゲストとして参加することになります。これにより、科学研究の成果を発表したり、製品の安全性を実証したりする絶好の機会を手に入れたことになります。

この結果、我々は国際協会として、ニュージーランドのMPIと話をするチャンスに恵まれました。これは歴史的な

出来事であり、ISWGとICTRの頑張りにより成し遂げられた偉業です。そしてこれには皆様一人一人のご努力も含まれています。INSCAと業界全体になり代わってお礼を申し上げます。

ICTRは、ISWGが何年も前にまいた種から我々が果実を収穫するのを助けてくれるのです。

ISWGの活動

当初はISWGの最新のプロジェクトと計画中のプロジェクトについてご紹介する予定でしたが、ISWGの皆様の代表の方からご説明いただく方がよろしいかと思えます。ご自身の業界との関連性が高いプロジェクトにご興味に限られるかと思われますので、皆様が最も関心を持たれているのは、(末端の消費者に届けられる途中で)塩漬けせずにケーシングを保存するプロジェクトなのではないでしょうか。

JNSCAが基本的に業界に関連した科学的研究に関心を寄せていることは、確かに知られています。皆様は、ISWGと一体となることの利点を完全には把握しておられないようにお見受けします。JNSCAとISWG間の情報伝達がうまくいっていないのではないのでしょうか。

皆様のご支援と知識、それにJNSCAがその代表となっている日本という巨大市場の重要性が、不可欠であるということは、明確に申し上げねばなりません。INSCAは国際委員会の中に皆様の旗を必要としています。さもなければ「国際」とはいえませんが。

我々はお互いから学びたいし、そうする必要があります。皆様にとっても有益なプロジェクトを策定し、資金を準備するにあたって、皆様のご協力を必要としています。

INSCAには新たにOIEとの接点ができました。以前は考えられなかった水準にまで到達しようとしているのです。ですから、JNSCAがISWGからの脱退をお考えになるのは時宜を得た行動とは申し上げられないことは明らかです。

次回と次々回のINSCA会議は香港で、セミアニュアル会議はドバイで開催予定です。極東と中東の好位置にあるので、日本からの移動が容易です。これらの会議は、一からやり直して、少なくともコミュニケーションとプロジェクトが皆様に利するものに変わるかを確認するまでの間、ISWGをサポートする絶好の機会となります。我々は皆様に会議に参加していただきたいし、参加してもらわねばならないのです。

ニュージーランドと中国の貿易障壁

これこそが、皆様が待ち望んでおられたトピックスなのではないでしょうか……

数週間前、私はCNSCA(中国ソーセージケーシング組合)の招きで中国を訪問しました。江蘇省CIQの当局者と北京のAQSIQのアドバイザーも招かれていました。そこで知ったのは興味深い事実であり、今の困難な状況が早く解決されるのではないかと希望も持ちました。その上、これまで冷凍ラナーを中国に送って洗浄と選別をしてもらっていたすべての生産業者が、新たな状況への対応策を練り始めているのです。

ニュージーランドの冷凍工場は、より広い敷地で洗浄も始めました。これらは中国の選別業者へ輸出されます。今後、冷凍原料の大半は地元で洗浄されることになるでしょう。中東でも、現状に対処するため洗浄・選別作業は増えていくものと思われます。

きちんと選別された原料を利用できるようになるには少々時間がかかることになるかもしれませんが、市場の常として、このような障害はしばらくたつと均一にならされることでしょう。

交渉がいかに続こうと、その結果がいかなるものであろうと、ニュージーランド産ケーシングの選別が止まることはなく、必要とされるニュージーランド産原料の日本への輸出が危険にさらされることもありません。エジプトの全ての選別工場が日本向けにおさえられていますし、かなりの量がこれまで通り中国で選別されます。したがって、ニュージーランド産ケーシングだけが影響を受ける限り、一部の実務作業と衛生および異物除去への特別な検査を除いては、実際、危険な不足は発生しないものと思われます。

ケーシング業者が新しい状況に対処しようとしている最中ではありますが、我々は旧システム(ニュージーランド-中国)が回復されること、そしてこのケースでは我々が扱う品目で自由貿易が実現されることを望んでいます。

もちろん、「自由貿易」を必ずしも最優先に掲げているわけではないメンバー企業や団体がいらっしゃることも承知しています。

国内産業の保護が「自由貿易」よりも優先されることがあります。しかしこれは、INSCAの理想とは相容れないものです。

現在、港と空港で通関前に行われているケーシングの消毒業務について、JNSCAもおそらく、廃止への道筋を模索していらっしゃるのではないのでしょうか。今ある実証結果は、これがもはや不要であることを証明する助けとなるかもしれません。

この件に関する皆様の方針に口出しする人はいないでしょう。しかし、皆様が望めば、この余分な費用負担を回避できるのだということを十分認識すべきです。そうなれば、ケーシング材料の滑りを良くするために使用する化学薬品のマイナス面が問題にされることもないでしょう。

科学的研究に対する皆様の判断がどのようなものであろうと、我々の素晴らしい産業にとって良い判断であることを望みます。

さらなる希望を持ち、我々の製品の自由貿易が世界中で達成されるよう懸命にがんばりましょう。達成がどんなに困難でも、我々の地位を守らねば、足場を日々失うことになるのです。

ご清聴ありがとうございました。

以上